

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

韓国・ユンソンニョル大統領非常戒厳令

民主労総「退陣までゼネスト」方針 先頭で鉄道労組が無期限スト突入

12月3日夜に韓国・ユンソンニョル大統領が「非常戒厳」を宣言し、国会に軍隊も動員されました。

示された闘う労働組合の力

これに対して、韓国・民主労総はただちに動き、国会前への結集を呼びかけました。翌4日の午前2時10分には、夜の国会前で緊急中央執行委員会を開き、以下の緊急闘争方針を発表しました。

① 4日午前8時、中央執行委員会記者会見を皮切りに、ユンソンニョル政権退

陣まで無期限ゼネストに突入する。

② 民主労総組合員はゼネスト指針に従って現場を止め、戒厳撤廃、内乱罪ユンソンニョル退陣、社会大改革と国民主義実現のための行動を進める。

③ 首都圏の組合員は4日午前9時までソウル光化門広場に集まる。地域組合員は地域本部で定めた場所に集まる。

鉄道労組は闘いの先頭に立ちました。ユンソンニョル退陣に向けた闘争方針の下、翌日の5日から鉄道の民営化阻止を掲げて無期限ストに突入したのです。

その後、全国で学校非正規職労組6万人、金属労組傘下7万人と、続々とストが闘われています。

多くの民衆が「ユンソンニョル弾劾」を掲げて様々にデモに立つ様子が報道されています。その中で与党も抵抗しきれず、弾劾決議は可決されました。

民主労総はこの先頭で闘っています。闘う労働組合、団結した労働者の力が現実の闘いで示されています。



(上) 12月4日、「内乱犯ユンソンニョル退陣市民大会」後、民主労総組合員と市民が怒りのデモ
(下) 12月5日、ソウル駅前で開かれた鉄道労組ソウル地方本部のスト突入集会